

中国・3都市を一見観

— 大連、丹東、瀋陽を訪ねて —

富山県貿易・投資アドバイザー 野村 允

はじめに

8月8日から14日までの1週間、大連市・丹東市・瀋陽市（中国遼寧省）を訪問する機会を得た。近年、東アジア地域では、域内貿易自由化の動きが目立つようになったが、こうした情勢の下、中国東北財経大学（大連市）、韓国東亜大学校（釜山市）、金沢経済大学の3大学が学术交流協定を結び、域内における中韓日3国間での経済協力の可能性を探るための共同研究を進めることになった。今回の視察は、この共同研究の一環として試みられたものである。

何分、初めての試みであったため、必ずしも十分な成果を得たとはいえないが、筆者にとっては、大連市が5年振り、丹東市が初めての訪問であったため（瀋陽市は昨年6月訪問）、大変有意義な1週間であった。

1. 東北3省、遼寧省概観

東北3省（遼寧、吉林、黒龍江）は、1987年末からの改革・開放政策以後、社会主義計画経済期のまさに負の遺産のため著しい地盤沈下に喘いできた「東北現象」。現在、国有企業改革、産業構造転換など多くの課題を抱えながらも、3省それぞれ「東北現象」の離脱を目指し、自助努力を重ねてきた結果、近年、全国平均を上回る経済成長率を示している（表1）。

遼寧省について見ると、本格的な対外開放が華南から5年遅れた。1988年には遼東半島が沿海対

外開放地区に組み込まれ、漸く遼寧省の対外開放は点から面への広がりを見せた。特に、遼寧省は、東北地区の玄関口としての地の利を活かして対外経済関係を発展させてきた。第10次5カ年計画でも貿易、外資導入の促進および観光の振興を省の対外関係発展の支柱としている。最近、遼寧省は省都瀋陽市政府の汚職問題などから暗いムードに包まれていたが、省長および瀋陽市長の交代があり、遼寧省の将来発展に再び曙光がさしてきたようである。

2. 3都市の現況

遼寧省における3都市の特徴は表2-1、表2-2の通りである。省都である瀋陽市は、古くから工業都市として発展してきたが、東北地区最大の商業、交通の中心地でもある。瀋陽市を中心に、鞍山、撫順など遼寧省工業の基幹をなす都市群が連なり、瀋陽市を核とした経済圏を形成している。大連市は、中国の重要な港湾・工業・観光都市であり、東北地区の玄関口でもある。大連市発展のコンセプトは「不求最大、但求最好（最大を求めず最良を求める）」を指向しており、近年、緑深き環境都市として全国から注目されている。丹東市は、産業面では紡績、軽工業、電子工業などの集積がある。市街地は、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の新義州と鴨緑江を隔てて向かい合う中国最大の国境都市である。

表1 東北三省の2000年の経済実績

	遼寧省	吉林省	黒龍江省	全 国
GDP(億元)	4,668(8.9%)	1,820(9.2%)	3,255(8.2%)	89,404(8.0%)
第一次産業	510(0.8%)	400(3.0%)	353(3.2%)	(2.4%)
第二次産業	2,307.3(9.9%)	800(13.9%)	1,900(10.3%)	(3.6%)
第三次産業	1,851.0(10.6%)	620(11.0%)	994(11.0%)	29,704(7.8%)
対GDP割合	10.9:49.4:39.7	22.0:44.0:34.0	10.9:58.6:30.5	
一人当たりGDP	6,842元(8.1%)			
工業付加価値額	2,075(9.9%)	498(13.8%)	1,698(10.0%)	39,570(9.9%)
重工業	3,412.9(17.6%)	390(14.7%)	1,121.2(9.9%)	
軽工業	756.6(13.7%)	108.4(11.8%)	133.6(16.85%)	
輸出入総額(億ドル)	190.2(38.5%)	25.5(15.2%)	29.9(36.3%)	4,743(31.5%)
輸出額	108.5(32.3%)	12.4(21.8%)	14.5(52.7%)	2,492(27.8%)
輸入額	81.7(47.8%)	13.1(9.6%)	15.4(23.7%)	2,251(35.8%)
実行外資直接投資額	25.5(23.7%)	3.3(11.9%)	8.3(1.5%)	407(1.0%)
契約外資直接投資額	51.8(16.5%)	5.9(32.3%)		624(51.3%)

注:()内は前年比
資料:『中国経済』JETRO 2001.5

表2-1 3都市の基礎データ(1999年)

	面積 (万km ²)	人口 (万人)	GDP (億元)
遼寧省	14.75(100.0)	4,103.2(100.0)	4,171.6(100.0)
瀋陽市	1.30(8.8)	677.1(16.5)	1,013.1(24.3)
大連市	1.26(8.5)	545.3(13.3)	1,003.0(24.1)
丹東市	1.49(10.1)	240.5(5.9)	166.0(4.0)

注:()内は遼寧省内に占める構成比(%)
資料:遼寧省資料から

表2-2 3都市の基礎データ(1999年)

	対外輸出入額 (億USドル)	直接投資受入額 (万USドル)	海外観光客 受入人数(人)	観光外貨収入 (万USドル)
遼寧省	137.3(100.0)	206,366(100.0)	491,307(100.0)	30,444(100.0)
瀋陽市	18.2(13.3)	49,836(24.2)	172,146(35.0)	9,575(31.5)
大連市	69.7(50.8)	117,415(56.9)	260,208(53.0)	18,003(59.1)
丹東市	6.9(5.0)	3,324(1.6)	23,500(4.8)	814(2.7)

注:()内は遼寧省内に占める構成比(%)
資料:表2-1と同じ

以下、訪問順に、3都市を素描しよう。

(1) 大連市

8月9日訪問した大連市対外経済貿易委員会では、于副主任が「外資企業は、累計8,162件(届出)に達し、うち稼働企業は3,963件である。国別では、香港・マカオが2,100件(不動産)、日本が1,989件(製造業中心)、韓国が1,124件(中小企業主体)、アメリカが1,107件(製薬など)などである。中でも、在米中国人の起業家の増加が目立つ。ただ、大連市の泣き所は水資源の不足であり、現在、省内の河川からパイプを敷き水をもってきている」と語った。大連経済技術開発区では、日・韓企業を訪問した。日系企業A社(事務用機械関連)では、「大連市は、この5年間、インフラ整備とともに町の美化が一段と進んだ。華南に比べて治安も良く、住環境は素晴らしい。今後、工場の増設と新規事業の展開を計画している」と力強い話を聞くことが出来た。韓国企業B社(電子部品関連)は、「現在、携帯電話ブームに乗ってシーメンス中国工場へ部品を供給している。現在の仕事が軌道に乗れば、将来増設も考えている」と述べた。しかし、広い工場内では空室が目立ち、現場の雰囲気も心なしか活気がないように思われた。ただ、従業員の宿舎は清潔で、明るく、周辺の緑地も広々としていた。

5年振りに訪れた大連市街の変貌振りは目を見張るばかりであった。「大連緑起了(大連は緑になった)と言われているように、緑に包まれた街並みは実に美しい。永年にわたり大連市が進めてきた緑化運動や植林事業の推進が実を結んだのであろう。また、市街を歩いている人たちの表情にはゆとりと自信を感じた。ここ数年の間に、個人所得の上昇は住民生活のレベルを相当押し上げたのではなかろうか。レストランでは外食を楽しむ多くの人たちに出会い、観光スポットではタクシーを利用する家族連れが意外に多いのには驚いた。



大連市中山広場

(2) 丹東市

8月10日に訪問した丹東市対外経済貿易委員会では、韓副主任が「北朝鮮の経済は回復の兆しがみられる。その証として、日常生活品の輸出が昨年減少したことがあげられる。恐らく、日常生活品程度は自前で生産できるようになったものと思う。また、最近では新義州周辺地域からの亡命者が殆どいなくなった」と語った(表3、表4)。市側のデータによると、2000年末現在、外資企業数は484件、国別では香港・マカオ・台湾が165件、韓国が107件、日本が102件である。日系企業は大手の電機関連を主体に、ホテル、レストラン、水産加工、運輸など中小企業も多い。韓国KOTRA(大韓貿易投資振興公社)の情報によると、「8月初旬、北朝鮮のIT人材を活用し、韓国、中国からソフトウェアプログラムの開発を受注する目的で、丹東市郊外に、南北合弁情報技術会社「ハナ・プログラムセンター」がオープンした」ということである(『東アジア経済情報』東アジア貿易研究会2001年8月)。

翌日、鴨緑江を観光船で上下したが、向かう岸では、多くの子供たちが泳ぎ回り、地引網をして



鴨緑江鉄橋



北朝鮮の子供たち(鴨緑江)

表3 吉林省・遼寧省の対朝鮮国境貿易 (単位:億ドル)

	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
吉林省	0.93	2.29	4.72	4.55	1.44	0.98	0.91	0.94
遼寧省	0.32	0.45	0.56	0.77	1.02	1.08	1.50	1.70
合計	1.25	2.74	5.28	5.32	2.46	2.06	2.41	2.64

資料:『中国東北の経済発展』小川雄平編著

表4 遼寧省丹東市の対朝鮮国境貿易 (単位:万ドル)

	1991	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
輸出入額	3,167	5,634	7,675	10,196	10,810	15,041	17,039	17,915
輸出額	2,449	3,136	4,905	7,784	8,660	12,028	13,189	14,110
輸入額	718	2,498	2,770	2,412	2,150	3,013	3,850	3,805

資料:表3と同じ

いる姿を見ることが出来た。この無邪気に遊ぶ子供たちの姿と朝鮮戦争によって破壊された古い鉄橋の残骸を目前にした時、言い知れぬ思いにかられた。

(3) 瀋陽市

8月13日には瀋陽市経済技術開発区を訪問した。開発区管理委員会の鄭副主任は、「開発区の計画開発面積は32km²。外資企業は本年6月末現在、1,215件、国別では、韓国、香港、アメリカ、台湾、日本、ドイツ、フランス、スウェーデンなどである。業種的には、化学工業、医薬、食料品、自動車関連が多い。日系企業では、プリジストンタイヤ、山之内製薬、イトキン、日野自動車、カルビー食品などがある。韓国企業は、衣服、食品などを主体に中小企業が多い」と語った。因みに、当該開発区には、富山県企業2社が進出することになっている。

筆者のガイド役を務めてくれた開発区招商局の劉さんによると、「瀋陽市は、遼寧省の中でもコリアン・ネットワークのパワーが強いところで、市街地の一角にはコリアンタウンがつけられている。そこでは、少人数で商売(サービス業主体)をやっている朝鮮族が多い」ということであった。



瀋陽市中心部の百貨店

市街地にある百貨店へ出掛けてみると店内には中国製の日常生活品が圧倒的に多く、家電製品も中国製に混じってLG、三星、ソニー、ナショナルなどのTV、冷蔵庫などを見ることが出来た。また、繊維製品は、目下割引セールをやっていたが、割引料金をさらに値切ることが可能ということであった。最近の家庭内娯楽として、マージャンが盛んとみえマージャンテーブルが多く売られていた。また、大通りにある専門店などの店先では、日本ではよく見慣れる光景だが、手を叩きながら客を呼び込む若者の姿を見た。

おわりに

今回の訪問を通じ、まず東北地区および遼寧省の今後の方向、課題を考えてみた。21世紀に向けた東北3省の発展戦略は、各省それぞれの特性を活かした計画(10.5計画)となっている。その中で、特に注目されるのは3省間の経済、人材、技術などの交流の協力関係を推進しようとする点であろう。この基本的な考え方に沿って、遼寧省内での地域・都市間連携を深めることが望ましい。数年前、遼南・遼中地域を一体的な帯状都市群として連携し、開発を推進するための日中合同の研究會が開かれた。今、その具体化実現に向けて、日中韓3国間で改めて検討することが必要であろう。大連市では、今後5年の経済活動の基本方針として「双D港建設(デジタル・バイオ技術の発展)」とともに「北三市開発(普蘭店、瓦房店、庄河3市の連携強化)」を掲げている。

次に、3都市について見聞した中から特に印象深かった点をいくつか列挙してみよう。

- ① 3都市ともに、この数年間における市民生活の向上は目ざましい。
- ② 「美在大連」に代表されるように、いずれの市街地の美化 特に緑化の浸透が著しい。
- ③ 住環境の整備、交通機関の多様化などハード面の充実とともに、ソフト面でも交通規則に対する市民意識の変化、接客サービスの改善が窺われた。
- ④ 日本の伝統的産業の現地生産化が深化している。(例)大連、丹東での「水引き」、「縫針」など
- ⑤ 日系企業が北朝鮮への委託生産について関心を高め、既に始動している。(例)繊維、食品関連など